

「自らの命を守るために『知る・備える』『行動する』児童の育成」

令和5年度 高知県学校安全総合支援事業（災害安全）

香美市教育委員会 拠点校 香美市立香長小学校

1 事業の目標

（1）モデル地域の現状及び安全上の課題

香美市は、県の北東部に位置し、物部川、国分川、吉野川の源流域から高知平野の北東部にあり、地形は、概ね1,000～1,800mの高峰が周囲にそびえることから急峻で、棚田、集落が広範囲に点在し、市域の約9割を占める森林の多くが、国定公園、県立自然公園等に指定されるなど自然が豊かで風光明媚な街である。

災害被害では、地震・集中豪雨による土砂崩れから河川の氾濫が起き、それによって田畑、家屋への浸水の危険性が強い。特に、北部・南部の山間地は土砂崩れによる道路の寸断の恐れがあり、児童生徒の登下校時の安全等を確保することが課題となることがある。近年の異常気象による集中豪雨、局地的大雨（ゲリラ豪雨）等による風水害及び土砂災害の発生も懸念され、あわせて、南海トラフ地震対策への総合的な整備も行う必要もある。

また、香美市は、今から50年前に集中豪雨による土砂崩れで60名もの尊い人命が犠牲となった「繁藤災害」が発生した街であり、毎年7月5日には災害後整備された本災害の慰霊碑やモニュメントを設けた「繁藤災害追悼広場」で故人のご冥福をお祈りするとともに、災害から得られた教訓を後世に伝えるべく「繁藤慰霊祭」が執り行われている。本事業の拠点校である香長小学校は、繁藤地区を校区としており、その慰霊祭にも毎年、児童代表となる6年生が参列し故人のご冥福と安全への誓いを行っている。

香美市は、平成31年度には市内全小・中学校がコミュニティ・スクールとなり、地域学校協働本部が児童・生徒の見守り活動をはじめとする生活・交通安全や学校行事、授業支援などの支援体制や教育環境の整備に取り組んでいる。また、香美市少年育成センターの事業として各校に「やまびこ会」という児童・生徒の見守りをする組織がある。学校のPTA活動でも朝の交通安全の立哨や校区の危険箇所の点検などに取り組んでおり、地域ぐるみで児童・生徒の安全について見守ってくれる体制は整っている。

香美市では、令和4年度に本事業である高知県学校安全総合支援事業（交通安全）の指定を受け、「高知県安全教育プログラム」等に基づく授業実践や地域コミュニティと連携した活動を進めてきた。その中で、危機管理マニュアルの見直しや研修をとおして防災意識の向上など一定成果を上げてきている。しかし、学校安全計画や危機管理マニュアルについての見直しを含め、PDCAをいかに効率よく、効果的に回していくかということについて課題がある。また、児童生徒や地域の実態を適切に把握し、日常の授業実践においても教職員や児童生徒等の安全に対する意識の高揚を図り、資質・能力を高めるカリキュラムマネジメントの充実についても、まだ課題がある。

（2）モデル地域の事業目標

- 拠点校における学校安全の取組や推進体制を市内全小・中学校区等に普及するとともに、各校の安全教育担当教員が連携して、学校安全の取組を推進する。
- 「高知県安全教育プログラム」等に基づいた授業を実践することで、子どもたちが身の回りの危険を予測し、自らの危険を回避する力を身に付け、自分の命は自分で守り、安全に行動できる児童生徒の育成を図る。

2 モデル地域の取組の概要

（1）安全教育の充実に関する取組

ア 安全教育の充実に関する取組

「高知県安全教育プログラム」を指針とし、安全教育においても、教科等横断的な視点で関連性をもたせながら、地域の特性や児童生徒の実情等、各校の実態に合わせた授業実践を行った。互いの取組について情報共有を行うことで、自校の安全教育及び安全管理の取組の見直しにつながっている。また、重点取組である「災害安全」においては、子どもたちが南海トラフ地震について正しく理解し、自助・共助という防災の基本を身に付け、安全に行動する力を身に付けるため、防災学習教材「南海トラフ地震に備えちよき」や防災教育副読本「南海トラフ地震に備えて - 命を守る防災 BOOK」を活用した学習に取り組んだ。

イ 安全教育の取組を評価する・検証するための方法について

全校で行う学校評価を活用し、安全教育に対する意識等の状況、成果・課題等を把握し、その結果を基にPDCAサイクルを回し、次年度以降の計画や対策を検討している。

(2) 組織的取組による安全管理の充実に関する取組

文部科学省「学校の『危機管理マニュアル』等の評価・見直しガイドライン」を活用し、各校が作成している学校安全計画及び危機管理マニュアルの見直しを行った。その際、拠点校の取組も参考にしながら、より実践的な内容に見直し、それに則した訓練及び研修を行った。今後も定期的に見直しを行い、各学校運営協議会でも協議し、内容の充実を図る。

平成28年度より、毎年、香美市通学路安全対策連絡協議会を開催し、通学路の児童・生徒の安全を確保するため生活安全、交通安全等の観点から危険個所を総点検するなど、他の関係機関とも連携し安全対策を実施している。

(3) 学校安全推進体制の構築及び学校安全担当教員の資質向上に係る取組

市内全小・中学校の担当者及び教育委員会が学校安全実践委員会に参画し、拠点校の実践に学びながら、各校の学校安全担当教員の役割・重要性を確認し、各校の安全教育全般の取組の充実を図った。

また、拠点校の公開授業や研究発表会に参加し拠点校の取組事例や講師の講話を通して資質向上を図った。

(4) モデル地域全体への普及

拠点校である香長小学校での授業公開（7月）や研究発表会（11月）において、社会科や、学級活動、総合的な学習の時間など様々な視点から災害安全について考える授業を公開することができた。連携校においては、年間2回の安全教育実践委員会や拠点校の公開授業・研究発表会等を通して、災害安全に対する危機意識を高めることができた。

また、2月開催の「よってたかって生涯学習フォーラム」における児童の取組発表等により、地域や香美市全体へも情報発信を行う。

3 拠点校の取組

(1) 拠点校の目標

<自助>

防災意識を高め、自分の命を守るために主体的に行動できる児童の育成

<共助>

自分たちの地域の状況や課題を知り、地域の一員として行動できる児童の育成

<学校安全の推進>

生活に結びついた実効性のある危機管理マニュアルへの見直し

(2) 具体的な取組

○校内研修の実施

「高知県安全教育プログラム」に基づいた授業実践として、7月に香美市内小中学校の学校安全担当者に授業公開を行った。研究協議の後、高知県教育委員会事務局学校安全対策課の福重指導主事より本事業の説明と研究に対するご示唆をいただいた。

夏期休業中には、高知県教育委員会主催の防災教育研修会や文部科学省「教職員のための学校安全 e-ラーニング」を活用した研修を行った。

10月には研究発表会に向けて、高知県教育委員会事務局学校安全対策課の山本企画監より、安全教育と特別活動の関連について講話をお願いした。

○危機管理マニュアルの見直し

夏期休業中の研修での内容を受け、危機管理マニュアルについて見直しを行い、学校間で情報共有を行った。今後も定期的に見直しを行い、学校運営協議会でも検討していく予定である。

○311 教訓伝承・被災地研修への参加

8月9日から12日の日程で宮城教育大「311いのちを守る教育研修機構」主催の「311教訓伝承・被災地視察研修」に参加した。仙台市から釜石市まで被災地の震災遺構を視察したり、実際の避難した経路をたどったり、語り部の方から話を聞く機会を得た。311の教訓を私たちの未来を拓くためにどうつないでいくかということを学ぶ機会となった。

○保護者・地域学校協働本部による登校時の街頭指導等

以前より、保護者・地域学校協働本部の協力のもと、登校時の見守り街頭指導を行っている。また、これまでは、地域の方々と一緒に炊き出し訓練などの防災訓練にも取り組んでいたが、ここ数年は新型コロナウイルスの影響で実施されていない。学校運営協議会において、自主防災組織と連携した取組について協議し、協力体制を整え、来年度の実施を予定している。

○キッズチャレンジデイの実施

例年はキャリア教育の視点で学年毎の取組を行ってきたが、今年は全学年が防災をテーマに学年PTAに企画をお願いし、10月26日にキッズチャレンジデイを実施した。

1年生 防災で楽しもう 高知大学防災助っ人隊	2年生 防災グッズを作ろう 2年学年PTA
 <p data-bbox="316 1854 667 1888">お菓子でポシェットづくり</p>	 <p data-bbox="906 1854 1289 1888">新聞紙でスリッパをつくろう</p>

<p>3年生 親子で学ぶ防災 高知県防災砂防課</p>	<p>4～6年生 防災セミナー (株)フタガミ</p>
 <p>非常持出袋を背負ってみよう</p>	 <p>おしっこを固めてみよう</p>
 <p>防寒シートを羽織ってみよう</p>	 <p>揺れを耐えるポーズは？</p>

○研究発表会の開催

本年度のまとめとして、11月16日に研究発表会を開催した。各校の学校安全担当だけでなく、保護者・地域の方々にも参加を呼びかけており、参加者に安全教育の取組を紹介することができた。授業では、全ての学年で「高知県安全教育プログラム」を基にした単元計画を立て、総合的な学習の時間、学級活動等の学びをつないで実践力を高める授業づくりを進めてきたことを表現することができた。



<公開授業>

- 1年 揺れがおさまっても…まだ続く危険とは？
- 2年 避難生活ってどんなもの？
- 3年 土砂崩れが心配！揺れたら急いで避難場所へ
- 4年 家族で開こう 防災会議！
- 5年 命を守る方法を知る
- 6年 大好きなまち香長～守ろう命、繋ごう防災～
- たんぽぽ 学校の教室以外の場所で地震がおこったとき、どうやって身をまもる？

(3) 取組における成果と課題

【成果】

防災に係るアンケート結果より「地震が起きた時に、揺れから自分の命を守る方法を知っている」という項目で「知っている」と回答した児童の割合は89.0%、「だいたい知っている」と回答した児童は9.6%であった。まず自分の命を守るという視点での行動はとれるようになってきている。

学校全体で防災（学校安全）の視点を加えたカリキュラムマネジメントの意識が高まっており、日常の学校生活全般において、防災（学校安全）の視点が育ちつつあり、児童も発達段階に応じて周りの状況を見ながら行動しようとする意識が育ってきている。

【課題】

「地震などで避難した後に家族と集合する場所や連絡方法を話し合っている」という項目で「話し合っている」と回答した児童は71.2%となっており、保護者も一緒に参加できるキッズチャレンジデイなどの取組は行ったが、保護者の意識を高めるまでには至らず、防災について家庭への啓発が十分でなかったと考えられる。

今後の取組として、本年度の取組をより多くの方々に知ってもらえるよう、「よってたかって生涯学習フォーラム」や広報・ホームページ等を通じて発信し、本事業及び学校の取組をお知らせするとともに、安心・安全な学校づくり・地域づくりについて協力を願う。

今年度、地域と連携した防災活動を行おうとしたが、コロナ禍を経て、地域の態勢も整っていないこともあり、公民館の備蓄品を見せていただくといった活動にとどまってしまった。来年度に向けて、自主防災組織と連携し、学校を会場として児童・教職員・地域住民による防災訓練を計画し、実施するよう進めていく。

また、地域の方々と教職員が協議できる場を設け、災害安全だけでなく、生活安全や交通安全も含め、児童の安全確保について、取組を再点検し、足りない部分を補っていききたい。

4 事業の成果と課題

【成果】

事業の成果指標より「各学校において危機管理マニュアルの見直しや内容の周知などを行い、日頃の安全教育・管理や危機発生時における各教職員の役割について、共通理解を図っている学校の割合」「学校安全に関する校内会議や研修等を実施している学校の割合」が100%を維持、日頃の安全教育や未然防止の取組、危機発生時における体制・対応について共通理解を図るなど、安全教育への意識が引き続き高まったと考える。

併せて本市においては、全小中学校でコミュニティ・スクール（以下CS）・地域学校協働本部を中心に「やまびこ会」とも連携した児童・生徒の見守り活動や学校行事、授業への支援体制等が整うなど地域ぐるみで児童・生徒を安全に見守る支援体制が整ってきており、「学校安全ボランティアや地域住民等の活動の状況を把握し、見守り活動等の登下校の安全対策について家庭や地域、関係機関等と連携・協働体制ができている学校の割合」も100%となっている。

登下校中の安全確保に関しては、通学路の危険箇所対策として、平成28年度から「香美市通学路安全対策連絡協議会」を設け、生活安全、交通安全等の観点から危険箇所を総点検するなど、他の関係機関とも連携し安全対策を実施している。本年度は、意識の高まりもあり、防犯や交通安全の観点から危険箇所52か所が計上され、本年度既に改善されたり、次年度の改修に向けて予算計上されたりするなど、環境整備も着実に進めている。また、防犯等対策としてこれまでに、6校7台の子ども見守りカメラが設置されている。高知県南国警察署生活安全課の協力を得て、防犯対策研修を実施し、施設・設備面での防犯対策という観点で、改善が必要な箇所について確認したところ、新たに1校1台の要望が出されており、この点においても安全対策の強化が図られている。

夏期休業中には、高知県教育委員会主催の安全教育研修会や文部科学省「教職員のための学校安全 e-ラーニング」を活用した研修を行った。また、研修内容を受け、危機管理マニュアルについて見直しを行い、学校間で情報共有を行った。今後も定期的に見直しを行い、学校運営協議会でも検討していく予定である。

10月には研究発表会に向けて、高知県教育委員会事務局学校安全対策課の山本企画監に、安全教育と特別活動の関連について講話をお願いした。

11月16日の研究発表会は、第2回安全教育実践委員会を兼ねての開催であり、公開授業後の全体会では、学校長より取組発表、「311 教訓伝承・被災地視察研修」についての報告が行われた後、各校の学校安全担当者と地域の方で構成されたグループで「地域と学校のできる防災活動」について協議を行った。各校での取組についての情報共有ができただけでなく、今ある取組をさらにブラッシュアップするためのアイデアを得ることができた。協議の中で、自主防災に対する地域の方の思いも知ることができ、大人を動かすために、そしてこれからの地域を担う子どもたちの災害安全に対する資質・能力を育てるという大事な役割を学校が担っているということを再確認することができた。また、高知県教育委員会事務局学校安全対策課の山本企画監に総括をいただき、子どもたちが安心・安全に過ごすことのできる学校づくり・地域づくりについて、ベクトルを合わせることもできた。

2月に開催される「よってたかって生涯学習フォーラム」での児童の取組発表や実践発表等により情報を発信し、地域や香美市全体の学校安全への意識をさらに高めていきたい。

【課題】

「学校安全を推進するための学校安全担当教員（管理職以外）を校務分掌に位置付けている学校の割合」は80%となっている。第3次学校安全の推進に関する計画をふまえ、管理職が学校安全担当を担っている2校については、今後、管理職以外の教員を位置付けることにより、より実働的な学校安全体制の構築を図る必要がある。「校区にある自主防災組織等と協働して防災訓練等を実施もしくは、それに参加している学校の割合」は50%となっているが、コロナ禍での状況と比べると、地域と協働する機会も戻りつつあるため、CS間の連携や本市統一での体制づくりや取組等は、今回の指定事業が一つのきっかけとなり今後発展することが期待される。

本事業の取組により高揚が見られた危機管理への意識を継続且つ、自主的なものになるようさらに継続して取り組んでいきたい。

5 今後の取組の見通し

今年度は災害安全について、重点的に取組を行ってきたが、今後も生活安全・交通安全を含め、総合的に学校安全について対策を講じていきたい。また、学校安全担当教員とともに、拠点校の取組を他校及び他の地域へと普及させていく。市全体の安全へつなげていくためにも、一貫して取り組める組織及び協力体制を整備し、香美市全体が地域ぐるみで安心・安全なまちづくりを目指す。そのためにも、香美市の一員として、児童・生徒自身が自らの生命・安全について考えるとともに、自ら行動し、地域や他の人々へ貢献しようとする意識を育てていきたい。

来年度、市の防災対策課と連携し、校区にある自主防災組織等と協働して市内の学校を会場に防災訓練の実施を予定している。児童生徒だけでなく、地域の大人・教職員も自分事として防災について考える大事な機会としたい。